

随筆



粟国島紀行

曙クリニック
玉井 修

ゴールデンウィークを前に沖縄県は梅雨入りしたと発表された。粟国島へ出発する5月3日の朝、目が覚めると土砂降りだった。折角自転車に乗れると思って楽しみにしていたのに、この雨では断念せざるを得なかった。インターネットで雲の動きを見てみると、沖縄本島の北には更に多くの雨雲が押し寄せている。粟国島で爽快に自転車ツーリングするという期待は万の一つもあるまい。泣く泣く、泊港に雨の中タクシーでやってきた僕は連休を離島で過ごすという観光客でごった返すフェリーの切符売り場で往復¥6,310の乗船券を買った。

粟国島は沖縄本島の北西約60キロに位置し、一周12キロほどの島である（下記地図参照）。沖縄本島からは泊港から毎日カーフェリーが1往復しており、約2時間ほど船に揺られると到着する。もちろん自家用車を持ち込む事も可能であるがその場合は軽自動車でも往復5～6万の追加料金が出る。ちなみに自転車は¥750で持ち込み可能である。



【島に着いたらやはり土砂降り】

カーフェリーは快適そのもので、悪天候で出港を早めたにも関わらず、全く船酔いはいしな

った。しかし、周りを見ると結構気分が悪そうなる方も多く、2時間の船旅は辛そうだった。僕は以前よく船酔いしたものだが、最近ではほとんど気にならなくなっている。お酒に酔う事が多くなったので、船には酔わなくなったのだろうか？

粟国港に着いたが、案の定土砂降り。早速持ってきたビニール傘が必要となった。船を降り立ったものの、さてどこへ向かって歩けば良いのやら途方に暮れる。港のターミナルビルがポツンとあるだけで、あとは何も見あたらない(図1)。土砂降りでも、長袖のシャツを着ていても寒いのに、あたりには民家らしいものも見えずとても心細い。緑地らしき構造物があったのでそこへ向かうと少しずつ民家が見え始めてきたので少し安心した。雨の中、民宿を探し回るのは風邪をひきそうだったが、程なく今日宿泊予定の民宿^{ことぶき}寿を探し出す事が出来た(図2)。



図1



図2

【そてつ、もちきび、そして土砂降り】

民宿で荷物を置いて、早速島を散策に出かけた。まず民宿の目の前に広がる稲の様な作物がある。民宿の主人に聞くと「もちきび」というイネ科の作物で稲より低く、黄色い穂を垂れて今が収穫時だという。甘みがあって、ご飯に混ぜて今日の夕食に出してくれるとのことのお話しであった。大変楽しみである (図3)。



図3

粟国島は西に行くに従って海拔が高くなり、最大90メートルほどになる。粟国港は丁度南側の真ん中あたりにあり、その周囲に民家が広がっているの西に向かえば上り坂になり東に向かえば下り坂になる。まずは西に向かってみたが、何しろこの大雨である。足下はおぼつかないし、地理にも不慣れ、おまけに寒いし、ひとりぼっちの寂しさもあって早々と上り坂は断念した。粟国島にも多くの名所があるが、早々に諦めてしまったのでむしろ周囲をゆっくりと眺めながら雨のお散歩となった。ふと気が付くとマンホールにソテツのデザインがしてある (図4)。粟国島は昔、饑饉用にソテツを多く栽培していたらしい。今回はあまり多くのソテツを見かける事は無かったが、離島の厳しい生活の一端を想起させるデザイン画である。僕は雨の中更に安易な東の方に向かった。すると遊歩道があり、そこには多くの切り立った岩場とそこに自生する植物が見えてきた。波に浸食されて不思議な造形をしており、まるで鋭利な刃物の様になっている (図5)。ハリポッターの映



図4



図5

画に出てきそうな風景が広がり、何とも不思議な光景である。感心して岩場を歩いていたが、どれほど歩いても誰にも会わないし、海鳴りしか聞こえない。雨は相変わらずの土砂降り、足下は刃のような岩場の連続である。転んだらこの岩に串刺しかな? 等と考えると少々恐ろしくなってきた。

【夕食、夜の散歩、そしてやっぱり翌日も土砂降り】

身の危険を感じたので、雨の散策を切り上げて民宿に帰ってきた。民宿の醍醐味は何と言ってもその土地の食事でありつける事である。先ほどのもちきび入りのご飯と、島で採れた魚介類をたっぷりご馳走になった。どれも美味しかったが、もちきびの混ぜご飯はモチモチした食感が楽しい。夕食の後、腹ごなしに港まで少し散歩することにした。離島の夜は暗い、聞こえ

てくるのは海鳴りだけ、漆黒の闇というのはこの事だろうかと思いつつ、夜は暗いものだという当たり前の現実を思い出させてくれる。静寂や暗闇にこれほどの恐怖を覚えるのは、僕自身が都会の生活に毒されている事の裏返しなのだろう。身体が冷えないうちに民宿に帰り、暗い部屋でぼーっと天井を見ていたら自然に眠気が襲ってきた。日頃は不眠症の僕なのだが、その夜は不思議と自然な眠りについてた。

翌朝、目が覚めるとやっぱり土砂降り。どこへ行くというあてもないので、朝食を済ませるとフェリーの出航予定時間を確かめるために、まずは粟国港のターミナルビルに向かった。フェリ

ーは予定通り出港は14：00だという。フェリーは天候によって時間が繰り上がったり、欠航になるので一応確認は必要である。さて、確認終了したら後は何もやる事が無くなってしまった。ターミナルビルの外を見ると雨は更に激しく叩きつけるように降っている。僕はそのままターミナルビルで4時間ほど読書をしていた。

5月4日の夕方には僕はせわしくフォークリフトが行き交う泊港に帰ってきた。今回は全く天候に恵まれなかった旅となったが、それもまた旅の一部である。雨も風も寒さも寂しさも、全てが旅の一部である。

